

多るなり時著を焚く世とて馬のあきば上ノ三句は
然るものうきとて夜居は夢をさるるあつらひとて
日あり御狩の為め此さへいらぬ御代よりの事
うきよあるべし

駒はみく小田のやとれううと夢よきやまよきとて

古註はううと不知可尋とて是ハ唐鞍の類めて唐轡
束べし又古註はううとの馬也と云もうきとて叔はうきとて
馬臥る。と云此夢を馬上の唐鞍の夢とてバ駒と云唐
うきとてく小田は生る極夢とてけ夢よきと辛^{カラ}とてあつら

此四句のに文字五ノ句のに文字はさうてうきとて馬水也